



ワークス

資料のマイクロ
フィルム化について

公文書レポート

「大槻文彦と伊達
家爵位昇進運動」

特別企画

公文書館資料は
ただ今出張中です！

寄贈図書のご案内

お知らせ

写真中央は、江戸時代に作られた荒浜村（仙台市若林区荒浜）、手前は荒井村（仙台市若林区荒井）の絵図です。仙台市博物館で開催中の企画展「せんだい再発見！」では、他の村絵図も見ることができます。詳しくは5ページをご覧ください。

ワークス

資料のマイクロフィルム化について

専門調査員 佐々木 優実

当館では、平成14年（2002）度から資料のマイクロフィルム化を進めてきました。今年度は14冊のマイクロフィルム化がおわり、全体で447冊のマイクロフィルム化が完了しました。

以前は、明治時代から大正時代にかけての資料、特にお客様からリクエストの多い鉄道や教育関係を中心に進めてきました。

昨年度からは、昭和20年代の資料のマイクロフィルム化を進めています。昭和20年代の資料を優先した理由として、戦後の物資不足による粗悪な用紙、特に酸性紙が多く使用されていることが挙げられます。一部の紙は、明治時代や大正時代の和紙よりも早い劣化がみられる状況です。

資料をマイクロフィルム化するにあたり、まず、当館職員が対象となる資料を綴じている紐を取り除いていきます。次に用紙の右下に鉛筆で目立たないように通し番号を書いていきます。これは、万が一用紙の順番がバラバラになってしまった場合のために行います。解体した資料は中性紙箱に入れて、業者へ渡します。

マイクロフィルム化作業がおわった資料は、当館職員が再び資料を元通りの順番に綴じなおす作業を行います。マイクロフィルムを書庫に保管する際には、急速な劣化を防ぐために、密閉した箱の中に吸着剤を入れて保存しています。

マイクロフィルム化が済んだ資料を閲覧して頂く際には、原本ではなくマイクロフィルムを閲覧して頂きます。マイクロフィルムリーダーの操作等、分からない点がございましたら、お気軽に当館職員へお尋ね下さい。



公文書レポート

「大槻文彦と伊達家爵位昇進運動」

専門調査員 栗原 伸一郎

本年度、当館では企画展「近代のなかの伊達—歴史学者・大槻文彦と宮城県—」を開催しました。国語学者として著名な大槻文彦は、郷土の歴史に関する著作も数多く執筆し、宮城県民の郷土に対する歴史観に大きな影響を与えました。ここでは、展示のなかから、大槻が関わった伊達家の爵位昇進運動についてご紹介します。

明治維新の際、仙台藩は新政府の中心となった薩摩藩や長州藩を批判し、戦争に突入しました。この戊辰戦争で仙台藩は敗北し、大槻文彦の父・磐溪が支えた奉行の但木土佐も責任者として処刑されました。しかし、明治22年（1889）に大日本帝国憲法が發布されると、大赦令によって、明治維新における敗者の「罪」が消滅しました。これによって、全国各地で藩祖や旧藩を顕彰する動きが活発化し、地域の歴史・文化が「国史」や「日本文化」に位置づけられていきます（高木博志「記念祭の時代—旧藩と古都の顕彰—」（『明治維新期の政治文化』、思文閣、2005年）。

宮城県でも、伊達政宗を顕彰する祭典が開催され、仙台藩伊達家の復権に向けた動きが展開されました。その一つが爵位昇進運動です。明治17年（1884）の華族令によって、伊達家当主の伊達宗基は伯爵になりましたが、これは5段階中の3番目で、決して高くありませんでした。旧家臣たちは、昇進運動を進めようと大槻に協力を求めました。

大槻が経緯を記した「陞爵請願書材料」（一関市博物館蔵、以下「材料」）によれば、明治25年（1892）10月18日、増田繁幸・氏家厚時・遠藤庸治・国分行道の4人が大槻のもとを訪れ、昇進請願書の起草を依頼しました。このうち、増田は貴族院議員、遠藤は仙台市長です。当時、宮城県尋常中学校長と宮城書籍館長（県図書館長）を務めていた大槻は、来年度予算案の問題を抱えていました。しかし、督促が激しかったため、座右の書、記憶、「故老」の談話をまとめて、12月16日に注釈つきの草稿を書き上げました。大槻は草稿が「粗漏杜撰」であることを自覚しており、「諸君」に修正してほしいと願っています。

大槻は更に推敲を加え「伊達家陞爵請願書案」（一関市博物館蔵、以下「草案」）を作成しました。これは、明治26年（1893）1月26日付で、請願者は伊達基寧・伊達宗亮・伊達宗広・遠藤允信・氏家厚時になっています。また、朱筆で修正した部分があり、「遠藤」の印が押されています。遠藤允信か遠藤庸治が手を加えたのでしょうか。

「草案」に記される内容は、次の通りです（隅付き括弧内は「材料」で示される根拠）。

- 第7世の伊達行宗は、南北朝時代に義良親王や鎮守府将軍の北畠顕家に従い、関東の「官軍」が叛いた際も「賊」を防ぐなど、「勤王」の行動をとった【「伊達正統世次考」など伊達家蔵の古文書をもとに作並清亮が作成した編纂物】。
- 第17世の伊達政宗は、将軍徳川秀忠に対して、この天下は天照大神より受け継ぐ今上陛下が治める天下であると諫めた【「天文道三箇秘訣】。これ以後、幕府に皇室に対す

- る不遜な態度がなかったのは、この諫言かんげんによるものと思われる。
- 政宗が上洛した際、天皇から紫の厚綵あつぶさ（馬具に厚く垂らしたふさ）をかけた馬を与えられ【「伊達治家記録」】、菊桐の紋を許された【遠藤允信の話】。これは諫言に報いたと考えて間違いない。
 - 政宗は仙台城に帝座の間（上々段の間）を設け、玄関に車寄せを設けた。車寄せの扉や大手門には金の菊桐の紋があり、代々の藩主は入国した際に帝座の間を拝した【遠藤允信の話】。政宗がこれらを設けた目的は、反乱が起こった際に天皇を迎えるため、第29世の伊達慶邦よしくには上洛した際、これを御所での会議の席上で披露した【三好清徳の話】。
 - 政宗は松島の瑞巖寺にも帝座の間を設けた。明治天皇が巡幸した際、「三百年間待った行宮あんぐうに入るのは、ここだけだ」と述べた【松倉恂の話】。
 - 朝鮮出兵の際、政宗が旗艦に用いた旗は伊勢神宮の御札を模造したもので、その他の船旗やよろいは日章だった【遠藤允信の話】。
 - 政宗が設けた大番組おおばんぐみ（仙台藩の中核部隊）は、鎌倉将軍が京都守護のために設けた大番に倣ったもので、政宗が参内した際にその意図を述べた【佐藤信の話】。
 - 政宗は入京のために近江に領地を受け、藩邸には士卒を置いた【岩淵廉の話】。政宗は本末関係を結んだ近衛家このえを通して歳時に献上を行い、京都の連歌師に禄を与えることで、禁中の様子を探った【遠藤允信の話】。
 - 織田信長おだのぶながや毛利元就もうりもととなりは皇室への功績を認められたのに、なぜ政宗は認められないのか【三好清徳の論】。
 - 幕府に不政道があった際は、徳川光圀みつくにを関東総大将にするとの内勅ないちよくがあった。光圀は第20世の伊達綱村つなむらに、奥州旗頭にするとの内勅を伝えた。水戸徳川家と伊達家は代替わりの際に契約の盃を交わし、光圀と綱村は元旦に京都を遙拝した【「天文道三箇秘訣」】。
 - 綱村が家臣に与えた朱印状しゅいんじょうには「伊達家伯」の文字があるが、「伯」は「覇」に通じ、奥州旗頭の意である【三好清徳・遠藤允信の話】。
 - 内勅に応えようと、綱村は領内に要害を設けた。光圀と綱村が隠居させられたのは、内勅や要害設置の件が露見したからである【遠藤允信の説】。
 - 陸奥守が鎮守府将軍を兼ねるのは王朝よりの制度である【「職原抄」「他見無用録』『奥羽日日新聞』など】。幕府は伊達家以外には陸奥守を称させず、待遇も異例であった【「柳営秘鑑」】。
 - 仙台藩は近隣の民が蜂起する度に鎮め、幕府も奥羽を委ねた。また、奥羽諸藩の先導として蝦夷地の警備を行い、奥羽と蝦夷地の鎮守として功績があった。
 - 仙台藩は実高 230 万石で【遠藤允信の話】、巨大な藩である。
 - 戊辰戦争後、朝廷から仙台藩の領知は旧封 62 万石の半知（31 万石）にするとの内命があった【遠藤允信・増田繁幸の記憶】。内分として一関藩うちわけに 3 万石を割いているが、仙台藩は 30 万石以上ある。
 - 仙台藩は戊辰戦争の責任者を処分し、憲法発布の大赦令によって戊辰のことは消滅した。
 - 伊達家は 30 世 700 年続く「旧家」であり、「尊王」の主将を出した「名門」であり、奥羽や蝦夷地を鎮めた「巨藩」である。華族の上流に列すべきである【作並清亮の論】。

以上のように、大槻は仙台藩伊達家が皇室に尽くした「勤王」の名家である点と、地域の鎮めとなる大藩である点を強調しています。大槻は、記述は捏造ではないと述べていますが、実際には、根拠が薄弱で、論理が飛躍している部分が少なくありません。

例えば、「草案」では、陸奥守であった伊達家は、鎮守府将軍でもあったと述べています。こうした見方は、すでに幕末の頃には広まっていたので、大槻は当り前のことだと思っていたのでしょう。この点を裏付けるため、「材料」のなかで大槻は、陸奥守と鎮守府将軍が併記される将軍徳川家齊が片倉小十郎に対して与えたとする朱印状【横沢浄所蔵「他見無用録」】を根拠の一つとして記しています。しかし、欄外には「此朱印文、俗書偽物ナリトモ思ハル」とも記していました。

また、信憑性との関連で注目されるのは、「勤王」論を中心に「草案」の内容が、複数の旧家臣の談話を根拠としていることです。「材料」の表紙にも、協力者と思われる人名(岩淵廉、氏家厚時、飯川ツトム、鈴木省三、一條十郎、西山満二郎、佐沢広胖、岡台輔、佐藤信、牧野大勝、遠藤允信、作並清亮、横沢浄、大童信太夫、松倉恂、湯目隆治、永倉元敏)が記されています。そのなかでも、大槻が多く根拠としたのは、遠藤允信の談話でした。出典として挙げている「天文道三箇秘訣」も、遠藤家に伝わった写本で、仙台出身の天文学者が門弟から聞いたという話を記録したとされるものでした。

この遠藤や、談話を採用した三好清徳の父・監物、起草を依頼した増田繁幸は、幕末維新期に大槻磐溪や但木土佐と対立した人々でした。憲法発布後、三好は幕末維新期の功績によって国から位階を与えられましたが、大槻は彼らを薩摩藩や長州藩に味方したとして激しく批判し、逆に磐溪や但木の行動を賞讃していました(『仙台藩戊辰史』)。また、大童信太夫と松倉恂は但木の片腕で、大赦令によって家名断絶処分が解かれた人物でした。

それでは、なぜ大槻は遠藤らに協力したのでしょうか。大槻は、「材料」の表紙に「戊辰ノセメテモノ罪滅シ」と記しています。大槻は、戊辰戦争時に、父・磐溪や但木がとった行動が正しかったと信じていました。しかし、結果的に仙台藩は「朝敵」とされ、処分を受けました。そのことに対して大槻は、伊達家の家臣としての責任を感じていたのです。一方、遠藤らにしても、日本初の近代的国語辞典『言海』を完成させた大槻は、学識と地位を兼ね備え、起草者としてうってつけの人物でした。

主である伊達家の復権を成し遂げるため、旧家臣たちは、幕末維新期の立場の違いを乗り越えて、協力する必要がありました。そして、伊達家に「勤王」の功績があり、「鎮守府将軍」に象徴されるような特別な存在であることを証明する必要があったのです。

ただし、大槻は伊達家の自画自賛のみで、昇進できるとは考えていませんでした。「材料」において大槻は、内容を小出しにして何度も請願すること、宮内省爵位局にいる旧米沢藩士に依頼すること、実質 30 万石以上であるとの証拠を集めることを提案しています。大槻は単に作文するだけでなく、冷静に戦略を練っていました。

これ以降、「勤王」武将・伊達政宗の話は、様々な請願書や書籍のなかで、繰り返し紹介されるようになります。そして昭和 3 年(1928)、高橋是清ら旧家臣は、国に爵位昇進請願書を提出します(「秘書叙位贈位関係」【S3 - 2010】)。その内容は、大槻による「草案」を修正したものでした。結局、昇進は叶いませんでしたが、戊辰戦争を経験した旧家臣がまとめあげた伊達家の物語は、次代に受け継がれ、地域に広まっていったのです。

特別企画

公文書館資料はただ今出張中です！

専門調査員 澁谷 悠子

宮城県公文書館では、教育普及活動の一環として、博物館・資料館等の展示に所蔵資料の貸し出しを行っています。現在、仙台市博物館で開催中の企画展「せんだい再発見！」に、江戸時代に作られた荒井村・荒浜村の絵図や、明治・大正期の鉄道関係資料等の計8点を出品しています。

この企画展は、市制100周年記念事業として始められた『仙台市史』完結と、地下鉄東西線の開業を記念して企画されました。20年以上にわたる市史編さんの過程で調査・収集された資料のなかから、仙台を語る上で代表的・特徴的なものを選んで展示・紹介しています。例えば伊達政宗のような、仙台に住む人なら誰もが知っている人物・話題だけではなく、今まであまり語られてこなかった「知られざる仙台」の姿も見えるような展示になっています。また、現在の仙台市を形づくっている各地域の歴史に注目している点は、本展示のみどころといえます。展示を見た来館者の方からは、自分の住んでいる地域の歴史を知ることができた、資料と市史の成果を組み込んだ解説パネルを合わせて見ることで理解が深まった、といった反響があったそうです。

公文書館から出張中の資料のうち、荒井村と荒浜村（本紙巻頭写真）の絵図は特にじっくりと見て頂きたい資料です。通常は資料保護のため、複製物での閲覧のみとしていますが、今回、久しぶりに絵図の実物が多くの人の目に触れることになりました。地下鉄東西線の駅ができた荒井と、東日本大震災で大きな被害を受けた荒浜の絵図の実物を、この機会にぜひご覧下さい。



明治・大正期の鉄道関係資料

【展示情報】

仙台市博物館企画展

「せんだい再発見！—こんなことわかりました。平成の『仙台市史』—」

会期：平成28年2月28日（日）まで 休館：毎週月曜日、2/12（金）

開館時間：9:00～16:45（入館16:15まで）

観覧料：一般・大学生400円、高校生200円、小・中学生100円

★会期中は、レストラン三の丸で企画展特別メニュー「仙臺藩小正月御膳」を1日限定10食、1,600円（税込）で提供しています。ぜひ、新旧の仙台名産品をご賞味下さい。

寄贈図書のご紹介

平成 27 年 11 月から平成 28 年 1 月までに、関係各位より寄贈された図書・雑誌の一部をご紹介します。

仙台郷土研究会	『仙台郷土研究』第 40 巻第 2 号（通巻 291 号）
村田町	『時輝の継承 村田町町制施行 120 周年・町村合併 60 周年記念誌』
公益財団法人慶長遣欧使節船協会	『伊達政宗の夢 慶長遣欧使節』
京都府立総合資料館	『古文書つれづれ&明治の京都』
栃木県立文書館	『文書とともに生きる下野の人々一村における文書の管理・保存・引継ぎ』
学校法人南山学園	『南山アーカイブズ常設展示図録』
日本近代史研究会	『近代史料研究』第 15 号
富山県公文書館	『富山県公文書館文書目録 歴史文書 三十』
奈良県立図書情報館	『奈良県立図書情報館十周年記念誌』
神奈川大学日本常民文化研究所	『民具マンスリー』第 48 巻 8 号
同	『民具マンスリー』第 48 巻 9 号

このほか、たくさんの関係機関からの寄贈がありました。ありがとうございました。

お知らせ

◆ 公文書館企画展「近代のなかの伊達」のご案内 ◆

場所：宮城県図書館 2 階展示室（入場無料）
期間：平成 27 年 12 月 5 日（土）～平成 28 年 2 月 26 日（金）まで
時間：午前 9 時～午後 5 時まで
休館日：毎週月曜日（祝・休日の場合はその翌平日）・図書館の臨時休館日

◆ 公文書館だより バックナンバーのお知らせ ◆

以下のアドレスから『公文書館だより』のバックナンバーをダウンロードできます。

<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/koubun/tayori2.html>

◆ デジタルデータの頒布 ◆

村絵図面のデジタル画像データの頒布を行っています。
CD-R 焼付のみでの頒布となります（1 枚につき 5 点まで 1 枚 50 円）。

榴ヶ岡時代と紫山移転後に開催された企画展の図録が CD-ROM になりました（1 枚 50 円）。
宮城県公文書館企画展示図録集 『01 ～榴ヶ岡時代～』 『02 ～紫山時代～』

宮城県公文書館だより 第 30 号

平成 28 年（2016）2 月 1 日 発行

編集・発行 宮城県公文書館

〒981-3205 宮城県仙台市泉区紫山 1-1-1

Tel 022 (341) 3231 Fax 022 (341) 3233

E-mail koubun@pref.miyagi.jp

HP <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/koubun/>



